

令和5年度 博物館施設 目標設定・評価シート

年度当初目標設定

中間評価（9月末実績）

年度末確定評価

施設名 埼玉県立自然の博物館

I 自己点検・分析

- 1 館の使命・ビジョン
- 2 現状分析と課題の抽出
- 3 チェックリスト(自己点検表)

II 目標設定

- 1 中期重点目標と取組の設定
- 2 単年度指標による数値目標と達成値
- 3 取組の概要

III 評価

- 1 自己評価総括
- 2 外部評価委員等によるコメント

I 自己点検・分析

1 館の使命・ビジョン

埼玉県立自然の博物館の使命について

県立自然と川の博物館は、自然及び川と人々の暮らしとの関わりに関する資料の収集・保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図り、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する博物館です。

自然の博物館は、「過去から未来へ埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、自然資料を収集・保管し、調査研究して将来へ継承し、情報を発信します。

また、学習を支援して、自然に関心を持つよう人材を育成し、様々な人との連携・交流を進めます。

さらに、川の博物館と連携し、県内唯一の自然系総合博物館として、秩父地域から埼玉全域へと視野を広げ、県民の皆さんとともに考え行動しながら、旺盛な博物館活動を展開していきます。

(1) 自然史資料を収集・保管し、調査研究して、将来へ継承します（データバンク機能）

自然史分野を総合的に扱える県内唯一の博物館として、埼玉の自然とその変遷に関する生物・岩石・化石資料、自然と人との共生に関する資料を収集・整理・保管します。

また、これらの資料を調査研究し、埼玉の自然について明らかにしていくとともに、資料価値を高め将来へ遺します。

(2) 資料を活用し、多彩な情報を発信します（情報発信機能）

「過去から未来へ 埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに、展示や教育普及活動などを通じて、県民をはじめとする広範な人々へ情報を提供します。

利用者の多様なニーズに合わせ、自然に親しむための情報や調査研究に基づく学術情報など、魅力的な情報を発信します。

(3) 学習を支援し、自然に関心をもつ人材を育成します（学習支援・人材育成機能）

学校や社会教育施設、地域社会を対象に、地域の自然や館有資料を活用した体験学習を推進・支援します。これらの体験学習や展示を通じて、人々の知的好奇心を刺激し、自然に関心をもつ人材の育成に貢献します。

(4) 様々な人々と連携・交流を進めます（連携・交流・啓発機能）

自然に関心をもつ個人、地域社会、関係機関・諸団体と連携・交流を進めます。

こうしたネットワークを少しずつ広げながら、人・もの・情報が集まる博物館とすることにより、相互のレベルアップを図っていきます。

2 現状分析と課題の抽出

1 資料の収集・整理・保管

ア 平成2年度から「館有資料所在点検実施計画」に基づき収蔵資料点検を計画的に実施しているが、従前の計画では、全資料の点検終了までに長期間を要するため、重点化を図り迅速に取り組む必要がある。

イ 現在、自然系標本を積極的に収集してきた世代が高齢期を迎えており、学術的価値を有するコレクションの寄贈申出が多い状況にある。

新規資料を受け入れるためには、効率的な収蔵方法を検討するなど、収蔵スペース確保に取り組む必要がある。

2 資料を活用した情報発信

ア 生物系資料についてはGBIF等を通じて資料のデータベースを公開してきたが、取組が不十分である。

イ 資料のデジタルアーカイブ化に十分に組み合わせていない。

ウ 学説の変化や新収集資料を反映させた常設展示更新を計画的に進める必要がある。

3 学校教育との連携

ア これまで出張授業や体験学習支援を積極的に行ってきたが、学校からのニーズに十分応える体制が整備できていない。受入れ方法や体制を見直す必要がある。

イ 学校授業で活用できるコンテンツ（動画・貸出用標本等）開発など、新たな学校教育支援の在り方について検討する必要がある。

I-3 チェックリスト(自己点検表)

施設名 自然の博物館

(1) 全館共通項目

項目	チェック内容	達成基準	
		達成度	課題等
		未実施、又は取り組まれていない	1
		実施しているが、取組みが不十分	2
		実施、又は達成している	3
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	3	
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか	3	
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3	
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	2	現行の資料点検計画では、収蔵資料全数点検の完了に長期間を要しており、迅速化が課題である。
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	2	予算措置が必要なものについて計画的な実施が進められていない。
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか	2	データベース公開が進んでいないため、公開方法を検討し計画的に推進する必要がある。
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか	3	
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3	
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化(画像を含めた)に取り組んでいるか	2	随時的な対応に留まっており、推進体制の構築と計画的な実施が必要である。
常設展示	① 展示設備等を適宜点検しているか	3	
	② 常設展示は定期的に更新しているか	2	部分的な更新に留まっている。予算措置を伴う展示の更新や長期的な更新計画などが検討されていない。
	③ 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3	
	④ 展示解説等を適宜実施しているか	3	R5.4.1から再開。
	⑤ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3	
	⑥ 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	3	
	⑦ 観覧者の満足度は得られているか	3	
学習支援・普及事業	① 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか(参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等)	3	
	② アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3	
	③ 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	2	当館発行の図録等の刊行物を自由に閲覧できるようになっていない。
	④ 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3	

項目	チェック内容	達成度	課題等
情報発信	① SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	② 資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③ 定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④ デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	3	
県民との協働・地域連	① ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	② ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③ 外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④ 地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	3	
	⑤ 地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調査研究	① 収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	② 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	3	
	③ 館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	④ 学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	3	
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	3	
	② バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③ 一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④ 手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	3	
	⑤ 館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	3	
	⑥ 展示室内の安全性の確保(監視員の配置・監視カメラの設置等)に努めているか	3	
施設の利活用	① 施設利用のための情報を公開しているか	3	
	② 施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③ 施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④ 施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

施設名 自然の博物館

(2)館別独自項目

項目	チェック内容	達成度	達成基準	
			達成基準	課題等
			未実施、又は取り組まれていない	1
			実施しているが、取組みが不十分	2
			実施、又は達成している	3
資料の保存・管理	① 新規登録資料について適切に保管されているか	2		収蔵スペースの確保が課題であり、資料の再整理による効率的な収蔵や、収蔵棚増設などを検討していく必要がある。
	② 資料のデータベースが適切に作成・管理されているか	2		分野毎のデータベースがあるが、一元化や、データバックアップ環境の整備が十分になされていない。
	③ 未整理資料について整理を進めたか	2		随時の実施に留まっている。実施体制の整備と計画的な推進が課題である。
の特別 実施 ・ 企画 展 事業	① 目標・狙いを明確化した中・長期的な展示計画(川博の特別展企画含む)を策定し特別展・企画展を実施しているか	2		各展示のコンセプトが担当内の理解に留まり、館内での共通理解による戦略的な展示計画となっていない。広報に活かしきれていない等の課題がある。
	② 年間又は中期的にみて、幅広い年齢層やニーズを持った来館者が楽しめる内容になっているか	3		
	③ 従来の資料のほか新しい資料など広い範囲の資料を活用しているか	3		
支 援 自 然 分 野 を テ ー マ に し た 学 習	① 体験を通じて自然を学ぶプログラムを取り入れているか	3		
	② 実物資料等を活用した学習支援プログラムを取り入れているか	3		
	③ 多様な県民のニーズに応えられるプログラムを実施しているか	3		
	④ 博物館や県内の自然遺産を活用したプログラムを実施しているか	3		
県立自然系博物館としての活動	① 県立自然系博物館として県内の施設・団体・個人に資する活動を行っているか	3		
	② 全国の博物館等の自然科学系分野の活動に協力しているか	3		
	③ 県内の公共施設が行う展示・企画に協力しているか	3		
	④ 職員の専門分野を活かして専門的な知識を情報発信をするとともに、レファレンスに的確に応えているか	3		
	⑤ 行政等の文化財保護(天然記念物)・自然保護に関する組織の調査に協力し、専門的な立場から指導・助言を行っているか	3		
	⑤ 県内の研究機関、研究者等と情報交換等を行い、その成果を県民に還元しているか	3		
学 校 連 携 育 と の	① 学校教育における博物館の活用を促進するための研究・取組を行っているか	2		学校授業で活用できるコンテンツ(動画・貸出用標本等)開発など、新たな学校教育支援の在り方について検討する必要がある。
	② 博物館資料を活用した強みを生かした取組を行っているか	2		〃

II 目標設定

1 中期重点目標と取組の設定

【中期重点目標】	
(NO) (目標)	(取組み期間)
① 計画的な資料整理の重点化	令和5～9年度
② 資料活用促進のための環境整備	//
③ 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化	令和5～7年度

【取組】	
① 計画的な資料整理の重点化	
ア 館有資料所在点検実施計画の見直しと実施（年間：26000点）	
イ 収蔵スペースの確保 配架の見直し等による効率的な収蔵方法の検討と計画の具体化	
② 資料活用促進のための環境整備	
ア データベース公開方法の検討（GBIFやジャパンサーチ等の活用方法を検討）	
イ 資料画像化方針の策定と画像化の実施（500点）	
ウ 常設展示更新計画の具体化	
③ 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化	
ア 出張授業や体験学習支援の受入方法や体制の見直し	
イ コンテンツ（動画・貸出用標本等）の開発（企画広報・自然・環境担当でチームをつくる・体制づくり）	

I-3 チェックリスト（自己点検表）

施設名 自然の博物館

(1) 全館共通項目（令和5年9月30日現在）

項目	チェック内容	達成度	達成基準	
			未実施、又は取り組まれていない	1
			実施しているが、取り組みが不十分	2
			実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等	
資料収集	① 資料の収集方針、収集計画に基づき、資料収集を適切に行っているか	3		
	② 映像資料や情報資料等を収集しているか	3		
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項に基づき、資料の保存管理を適切に実施しているか	3		
	② 資料の所在確認とともに状態の点検を定期的に行うなど、資料を適切に管理しているか	2	5か年で資料点検を完了できるよう計画を見直した。今年度分は予定通り完了見込。	
	③ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的あるいは必要に応じて行っているか	3	予算措置が必要なものは現段階でないことが確認できた。職員による修復や保存処理は随時行っている。	
	④ 資料のデータベースの情報を適宜更新し、公開しているか	2	データベースの公開方法および公開計画を作成した。来年度から順次公開予定。	
資料活用	① 収蔵資料の館外貸出及び特別利用に適切に対応しているか	3		
	② 収蔵資料をホームページやSNS等で紹介・更新しているか	3		
	③ 収蔵資料のデジタル・アーカイブ化（画像を含めた）に取り組んでいるか	2	今年度中に資料画像化方針策定見込み。また、植物標本を中心に計画的に画像化に取り組んでいる。	
常設展示	① 展示設備等を適宜点検しているか	3		
	② 常設展示は定期的に更新しているか	2	更新すべき展示のリストを作成。今年度中に長期的な更新計画を作成予定。	
	③ 展示ガイドあるいは解説リーフレットを作成し、必要に応じて内容を更新しているか	3		
	④ 展示解説等を適宜実施しているか	3	今年度から学芸員によるミュージアムトークや展示解説ボランティアによる展示解説を再開。	
	⑤ アンケート結果等を活かした展示改善を実施しているか	3		
	⑥ 日本語を母語としない入館者に配慮した案内表示や展示パネル表示、パンフレット等の配布を行っているか	3		
	⑦ 観覧者の満足度は得られているか	3		
学習支援・普及事業	① 誰もが参加しやすい普及事業を実施しているか（参加申込み方法・プログラム内容・サポート体制等）	3		
	② アンケートなど県民の意見をプログラムの開発・改善に取り入れる工夫をしているか	3		
	③ 来館者用の図書・情報コーナーを適切に運営しているか	3	当館発行の図録等の刊行物を常設展示室の体験コーナーに配架した。	
	④ 学芸員実習やインターンシップを積極的に受け入れているか	3		

項目	チェック内容	達成度	課題等
情報発信	① SNS等その他のあらゆる媒体を活用して、誰もが受け取ることができる情報発信に努めているか	3	
	② 資料その他の専門分野に関する調査研究の成果を生かした情報発信に努めているか	3	
	③ 定期的に内容を更新し、常に新しい情報発信を行っているか	3	
	④ デジタル技術を活用したコンテンツの制作・公開に取り組んでいるか	3	
県民との協働・地域連携	① ボランティア活動に関する規程に基づいて、適切に運用されているか	3	
	② ボランティア研修を適切に実施しているか	3	
	③ 外部団体が館事業に参加する機会を設けているか	3	
	④ 地域で実施されるイベント等に積極的に関わっているか	3	
	⑤ 地域の多様な主体との連携に取り組んでいるか	3	
調査研究	① 収蔵資料に関する調査研究に積極的に取り組んでいるか	3	
	② 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	3	
	③ 館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	④ 学芸員の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	3	
	⑤ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法（著作物、展示、講演、研究発表等）で公開しているか	3	
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定し、定期的に更新しているか	3	
	② バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	3	
	③ 一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	3	
	④ 手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	3	
	⑤ 館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	3	
	⑥ 展示室内の安全性の確保（監視員の配置・監視カメラの設置等）に努めているか	3	
施設の活用	① 施設利用のための情報を公開しているか	3	
	② 施設を一般及び学校団体等の利用に提供しているか	3	
	③ 施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	3	
	④ 施設利用が、地域や他施設・機関・学校等との連携に役立っているか	3	

施設名 自然の博物館

(2) 館別独自項目 (令和5年9月30日現在)

項目	チェック内容	達成度	達成基準	
			未実施、又は取り組まれていない	1
			実施しているが、取り組みが不十分	2
			実施、又は達成している	3
項目	チェック内容	達成度	課題等	
資料の保存・管理	① 新規登録資料について適切に保管されているか	2	収蔵スペースの確保が課題であり、今年度は第一収蔵庫（地学系標本）について、配架の見直し等による効率的な収蔵方法を検討している。年度内に改善策をまとめる予定。	
	② 資料のデータベースが適切に作成・管理されているか	2	データベース公開に向け、データベースのチェックを行うとともに、公開の手順、バックアップのルール化などを検討している。今年度中に方針をまとめる予定。	
	③ 未整理資料について整理を進めたか	1	新規受入れ資料の整理や資料チェックを優先して実施しているため、積み残しとなっている資料の整理を進められていない。	
業特別展実施・企画展	① 目標・狙いを明確化した中・長期的な展示計画（川博の特別展企画含む）を策定し特別展・企画展を実施しているか	2	戦略会議を実施して館内でコンセプトを共有し、広報計画も見直した。	
	② 年間又は中期的にみて、幅広い年齢層やニーズを持った来館者が楽しめる内容になっているか	3		
	③ 従来の資料のほか新しい資料など広い範囲の資料を活用しているか	3		
自然分野学習支援事業	① 体験を通じて自然を学ぶプログラムを取り入れているか	3		
	② 実物資料等を活用した学習支援プログラムを取り入れているか	3		
	③ 多様な県民のニーズに応えられるプログラムを実施しているか	3		
	④ 博物館や県内の自然遺産を活用したプログラムを実施しているか	3		
県立自然系博物館としての活動	① 県立自然系博物館として県内の施設・団体・個人に資する活動を行っているか	3		
	② 全国の博物館等の自然科学系分野の活動に協力しているか	3		
	③ 県内の公共施設が行う展示・企画に協力しているか	3		
	④ 職員の専門分野を活かして専門的な知識を情報発信するとともに、レファレンスに的確に応えているか	3		
	⑤ 行政等の文化財保護（天然記念物）・自然保護に関する組織の調査に協力し、専門的な立場から指導・助言を行っているか	3		
	⑤ 県内の研究機関、研究者等と情報交換等を行い、その成果を県民に還元しているか	3		
学校連携教育との	① 学校教育における博物館の活用を促進するための研究・取組を行っているか	2	学校教育支援プロジェクトチームを発足し、出張授業や体験学習支援の受入方法や体制の見直しを行った。今年度は地学関係の授業プログラムを作成した。	
	② 博物館資料を活用した強みを生かした取組を行っているか	3	教育普及用貸出キット5種を作成した。	

II-2 単年度指標による目標値と達成値

(1) 全館共通項目

	視点	項目	指標	目標値	達成率	目標値の設定根拠
				達成値		特記事項
1	使命2 全般的活用	利用者数	年間入館者とアウトリーチ参加者数	113,900 人	66.0%	第3期教育振興基本計画を踏まえた目標値
				75,200 人		
2	使命2 展示公開	常設展 観覧者数	年間常設展観覧者数	76,920 人	83.9%	基準値：76,913人 目標参考値：76,913人
				64,549 人		
3	使命2・3 全般的活用	利用者数	1日当たりの利用者数	366 人	66.0%	(年間入館者+アウトリーチ)÷開館日数(311日)
				242 人		
4	使命2 情報発信・活用	デジタル 情報の利用状況	HPアクセス数	857,730 件	117.4%	基準値：551,848件 目標参考値：857,726件
				1,007,363 件		
5	使命2 情報発信	広報活動	メディア掲載件数	110 件	114.5%	基準値：108件 目標参考値：108件
				126 件		
6	使命2 活用・利用提供	経営努力	観覧料および事業等収入額	11,469,000 円	73.0%	* 当該年度予算計上額
				8,376,919 円		

(2) 館別独自項目

	視点	項目	指標	目標値	達成率	目標値の設定根拠
				達成値		特記事項
1	使命1 データバンク	収集・整理・保管	年間の点検資料数	26,000 点	100.1%	点検実施計画による 中期重点目標による取組
				26,032 点		
2	使命1 データバンク 使命2 情報発信	資料価値	館有資料の展示活用	3,730 点	132.2%	基準値：2,651点 目標参考値：3,724点
				4,932 点		
3	使命1 データバンク 使命2 情報発信	情報発信	レファレンス件数	460 件	83.5%	基準値：443件 目標参考値：454件
				384 件		
4	使命1 データバンク 使命2 情報発信	調査研究	県内の自然史に関する論議論文	20 件	150.0%	基準値：20件 目標参考値：20件
				30 件		
5	使命2 情報発信	常設展	アンケートでの常設展満足度	90 %	103.0%	基準値：96% 目標参考値：97%
				92.7 %		
6	使命2 情報発信	特別展・企画展	アンケートでの特別展・企画展満足度	90 %	88.9%	基準値：95% 目標参考値：96%
				80.0 %		
7	使命2 情報発信	デジタル情報の利用状況	YouTubeの再生回数	16,680 件	56.4%	基準値：6,712件 目標参考値：16,672件
				9,402 件		
8	使命3 学習支援・人材育成	自然観察会・講座等	アンケートでの受講者の満足度	90 %	109.8%	基準値：97% 目標参考値：100% 中期重点目標による取組
				98.8 %		
9	使命3 学習支援・人材育成	学校教育への支援	学校団体の博物館支援件数	150 校	113.3%	基準値：141校 目標参考値：141校 中期重点目標による取組
				170 校		
10	使命3 学習支援・人材育成	社会教育への支援	社会教育関係団体等への支援件数	20 件	165.0%	基準値：17件 目標参考値：20件 中期重点目標による取組
				33 件		
11	使命2 情報発信 使命4 連携交流啓発	SNSの活用	X twitter フォロワー数	11,580 人	102.8%	基準値：7,060人 目標参考値：11,579人
				11,905 人		
12	使命4 連携交流啓発	協働・地域振興	各団体との共催・協力イベント	10 回	60.0%	基準値：5回 目標参考値：8回 中期重点目標による取組
				6 回		

※ 利用者数=常設展観覧者数+無料入館者数+アウトリーチ参加者数 常設展観覧者数=特別展・企画展観覧者数+常設展のみの観覧者数
 ※ 基準値：過去5年間の最小値及び最大値を除いた分の平均値 目標参考値：基準値と昨年度値を比較して大きい方の数値 目標値：目標参考値の1の位を繰り上げた数値 ※ 目標値の設定については、経年の実績を同じ指標で比較することで、それぞれの年度の特徴づけをするために、新型コロナウイルス感染症による利用者への影響等を考慮しないで、例年通りの方法を採用した。

3 取組の概要

施設名 自然の博物館

1 中期重点目標に関する取組

- ・計画的な資料整理の重点化
館有資料所在点検 26,032点。
第1収蔵庫の配架の見直しの方向性及び課題を確認。おおまかな今後のスケジュールを整理。
- ・資料活用促進のための環境整備
データベース公開方針(案)を作成。公開に向けたスケジュールを確認。
資料画像化 548点。
資料画像化方針(案)を作成。
常設展示改修基本方針(案)を作成。
- ・主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化
堆積岩の学習プログラム及び学習キットを作成。
令和6年度以降の取組スケジュールを確認。

2 常設展の充実

- ・岩畳を紹介する「長瀨の自然コーナー」の季節に応じた定期的交換。
- ・カルガロドン・メガロドン鱗化石を期間限定で展示。

3 特別展、企画展等の実施

- ・企画展
①自然の色と模様(4/1～6/18、12,876人)
②はね-飛ぶ羽根・鳴く翅・すごいハネ-(7/1～10/15、26,411人)
③入間川流域の自然遺産調査から見えたこと(3/9～6/16 開催中)
- ・特別展
①埼玉シェルワールド-貝からひも解く埼玉の自然-(10/28～2/25、18,402人)
- ・パネル展
①発色のしくみ(4/1～6/18)
②県の石-埼玉県の岩石・鉱物・化石-(6/20～10/15)
③埼玉のカエデ(10/17～2/25)
④空から見た入間川(2/27～6/16 開催中)
- ・共催展
①ステラの深堀企画「埼玉はむかし海だった！」(11/1～11/26、6,809人)
- ・小学校巡回企画展
①寄居小で実施(6/26～7/7、386人)
②鉢形小で実施(11/6～11/17まで、403人)

4 講座・講演会等

- ①自然史講座(6/17、26人) (7/8、69人) (7/22、25人) (9/16、19人)
(11/15、16人) (12/2、30人) (2/10、2人) (3/23、34人)
- ②観察会 (4/22、20人) (5/27、16人) (9/30、17人) (10/7、2人) (12/16、15人) (1/27、22人) (2/24、18人)
- ③講師派遣(社会教育団体等) 33回927人

5 学校との連携

- ①体験学習 17回 690人
- ②学校への出前授業 12回 888人
- ③学校利用受入れ 124校 6,675人
- ④虎岩 8校 562人
- ⑤物品貸出 9校
- 【再掲】小学校巡回企画展

6 国天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類群」関連事業

- 「古秩父湾Instagramフォトコンテスト」入賞作品巡回展の実施 (4/18～5/28)
※ その他の巡回展示館
長瀨町中央公民館 (6/1～11) 秩父市歴史文化伝承館 (6/13～7/2)
横瀬町町民会館 (7/5～20) 皆野総合センター (7/22～8/7)
おがの化石館 (8/11～31)

7 関係機関との連携

- ・地元観光協会
青もみライトアップ (5/20～6/18)
長瀨の日 (7/16) 事業協力
もみライトアップ (11/10～11/23)
長瀨100周年記念事業実行委員会 (通年)
- ・埼博連加盟秩父地域博物館10館共同でスタンプラリーを実施 (7/22～9/10)

Ⅲ 評価

1 自己評価総括

(1) 評価

- 中期重点目標に関する取組は、概ね順調に実施できた。
 - ① 計画的な資料整理の重点化
館有資料所在点検について、目標の26,000点を達成。
収蔵スペースの確保については、第1収蔵庫の配架の見直しを検討し、その方向性及び課題を確認し、今後のスケジュールを整理した。
 - ② 資料活用促進のための環境整備
改正博物館法施行に伴い、博物館の事業として新たに位置づけられた「デジタルアーカイブの作成と公開」を進めるための資料データベース公開方針及び資料画像化方針を決定。
資料の画像化については、目標の500点を達成した。
また、利用者層の変化に応じた常設展示にしていくための常設展示改修基本方針を決定。
 - ③ 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化
学校の現在のニーズに応じた支援を行うため、学校教育支援プログラムを再構築し、今年度は、地質分野の教材開発を進めた。
- 利用者数(入館者及びアウトリーチ)について、昨年度実績(70,593人)は超える見込みだが、コロナ前からは未だ回復途上で、年度当初の目標(113,900人)には未達。
当初計画になかったステラタウンとの共催展示(利用者数6,809人)を実施するなど、利用者数の確保に向けた取組を実施した。
- 常設展満足度は目標(90%)を達成(92.7%)。特別展・企画展満足度は目標(90%)には未達(80.0%)。
- 学校団体の博物館利用件数は目標(150校)を達成(170校)。
- Xのフォロワー数は目標(11,580人)を達成(11,905人)したが、Youtubeの再生回数は目標(16,680回)に未達(9,402回)。

(2) 課題と対応の方向

- 中期重点目標に関する課題と対応の方向
 - ・ 令和4年度、当館が重点的に取り組むべき課題として、① 資料の収集・整理・保管、② 資料を活用した情報発信、③ 学校教育との連携 を抽出し、課題解決に向け以下のとおり目標と取組を設定(3年～5年計画)した。
計画1年目の今年度は、課題解決の方向性を定め年次計画を作成し、順次取組を進めた。
2年目以降は、年次計画に従って取組を進めていく。
 - ① 計画的な資料整理の重点化(5年計画)
館有資料の所在点検は、資料データベースを公開する上での前提となるため、よりスピード感をもって進めていく必要がある。
第一収蔵庫のスペースの確保については、5年目(令和9年度)に大幅な配置換えを行うことを目標として、順次資料整理を進め、予算の確保を検討していく。
 - ② 資料活用促進のための環境整備(5年計画)
資料データベース公開及び資料画像化については、今年度作成した方針に則り、計画どおり着実に進めていく。
常設展示については、今年度整理した展示の基本コンセプトを元に、計画をより具体化していくとともに、予算の確保を検討していく。
 - ③ 主体的・協働的な学びの視点による学校との連携の拡張・深化(3年計画)
来年度以降は、生物分野の教材開発を進めるとともに、映像コンテンツの作成に力を入れていく。
- 中期重点目標以外の課題と対応の方向
 - ・ 特別展・企画展の満足度(目標90%以上、実績80.0%)については、年度当初にアンケートの取り方を変更したことによるところが大きい。満足度を参考として、より充実した展示を企画していく。
 - ・ 利用者数、特に入館者及びアウトリーチを確保するため、時代の変化を捉えた広報戦略の見直しなど、具体的な取組を早急に検討、実施する。
 - ・ Youtube動画再生回数(目標16,680回、実績9,402回)の目標未達については、新規動画が少ないことによるところも大きいと考えられることから、動画などのコンテンツの開発・公開等、SNSをより活用した取組計画を早急に策定し、計画的に取組を進める。

2 外部評価委員等によるコメント

・利用者数は徐々に回復傾向にあるが、未だコロナ禍以前には回復していない。利用者数は長滞地域の観光客の増加とともに増加していく部分もあり、地域との連携が欠かせない。

・博物館の活動は概ね順調に行われている。特に学校の利用が安定して多いのは、よいことである。
企画展・特別展・自然史講座・自然観察会・巡回展などの充実したプログラムが提供され、参加者の満足度も高いことは評価できる。

・学校教育における博物館の活用を促進するためには、まずは教員の博物館研修を徹底的に進めることが重要である。
教員が博物館の保管資料や展示資料を理解し、魅力を感じることができれば、学校の博物館利用がさらに増えるのではないかと。教員のリピーターをいかに増やせるかが鍵。

・調査研究は学芸員の重要な業務であるので、発表論文（最低各分野で1つ）を増やすべき。学芸員の研究環境の改善が必要である。

・資料のデータベース化・画像化等、資料活用の促進が中期重点目標に設定され、着実な活動が始められていることは評価できる。

しかし、これらの目標は、数少ない学芸員だけでは達成できるとは思えない。学芸員の増員やアルバイト人員などの予算確保が必要あり、そうでないなら目標値を下げる必要がある。

・実現可能性との間に距離が大きくなると、かえって全体やほかの点で損ねることが多くなる。人を大事に、全体のバランスをとって活動してほしい。